

## 第2章 道 徳

### 第1 本指導実践事例集の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 中学校学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえて、同指導資料、同評価資料との関連を図り、道徳の時間の指導の充実に資するよう具体的に実践例を示した。
- (2) 生徒一人一人が、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深め、主体的に道徳の実践力を身に付けていくことができるよう、基本的な指導方法を中心にしながら、多様な指導につながる実践例を示した。
- (3) 指導の参考となるよう、指導案とともに授業記録を示し、その中に基本的な着眼点等を示した。

#### 2 取り上げた内容

- (1) 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める道徳授業の創造

##### ア 言葉を生かし考えを深める工夫

言語活動の充実が求められているが、道徳の時間における言語活動の中心は話し合いである。そこで、効果的な話し合いを行うために「道徳の時間における言語活動の例」を指導過程に沿って示した。また、「話し合い」と「討論」のモデルを示し、具体的な話し合いの例に基づき、どのような言語活動が行われるかといった例を示した。

##### イ 体験活動を生かすなどの指導の充実

共通体験を想起して指導に生かすという視点で体験活動を活用することにより、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導は一層充実する。しかし、道徳の時間の指導のねらいから、限られた道徳の時間の中で体験活動そのものを実施することではないことに留意しなければならない。ここでは、生徒の共通体験を導入に生かす事例や授業の中での体験的活動の一例として、導入の段階で役割演技を取り入れ、道徳的価値への方向付けを行った事例を取り上げた。

##### ウ 魅力的な教材の開発や活用

生徒の実態にあった教材で人間としての生き方の自覚が深められるような資料を開発することは、生徒の道徳の時間への興味・関心を高めるばかりでなく、道徳的心情を豊かにし、判断力を高め、意欲や態度を向上させることが期待できる。そこで、開発までの経緯や開発した資料について具体的に示した。

- (2) 学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育の推進

##### ア 道徳教育の取組の家庭や地域社会への広報

学校は、家庭や地域社会の理解を得て、協力をいただきながら日々の教育活動を進めている。そこで、学校における道徳教育の取組を家庭や地域社会に伝えるための情報発信を行う必要がある。ここでは、道徳の時間の指導や事前・事後の指導、アンケートの活用、シラバスの発行、道徳通信や学級便り等の活用例を示した。

##### イ 道徳教育に関する学校行事等への家庭や地域社会の参加

学校行事に保護者や地域の方が参加することで、生徒が地域の方と触れ合い、様々な機会を通して絆を深めていくことができる。このため、道徳の授業公開の際に専門的な話をさせていただく「ゲスト・ティーチャー」を活用することもできる。ここでは、保護者や地域の方の負担を少なくするため、より取り組みやすい生徒役として参加する実践例を示した。

##### ウ 道徳教育を柱とした地域の活動

家庭や地域社会が学校と連携し、地域の道徳教育の成果を青少年健全育成協議会が取りまとめ、啓発資料として冊子を作成配布し、地域の教育力を生かした道徳教育の実践例を示した。

- (3) 小・中学校が連携した道徳教育

##### 小・中学校の内容項目の関連を図った授業

小・中学校合同の道徳教育推進教師や道徳主任等の取組により内容項目の関連を図り、発達の段階に応じた授業を行った。ここでは「基本的な生活習慣の確立」などを中心に生活規律を身に付ける取組についての実践の例を示した。

#### 3 活用に当たっての配慮事項

ここで取り上げた事例の活用に当たっては、各学校、各学級及び各地域の実態に応じて創意工夫し、各事例相互の内容を関連させ、多様な指導や取組を考えるなどして効果を高めることが大切である。

## 第2 実践事例

### 1 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める道徳授業の創造

#### (1) 言葉を生かし考えを深める工夫

道徳の時間における中心的な言語活動は、「話し合い」である。生徒の価値の自覚を深めるためには、自分のこととして主体的に受け止め、話し合うことが必要である。「話し合い」は、自分の意見の根拠や理由を明らかにする過程であり、「なぜ?」「どうして?」と更に深く自己や他者と対話することにより、自分自身を振り返り、自らの価値を見つめ見直すことができる。また、「話し合い」が効果的に行われることにより、人間としての生き方について考えを深めることもできる。しかし、単に「話し合い」をすればよいのではなく、効果的な「話し合い」をさせるためには、「話し合い」に至るまでの間に、話し合いたくなるような指導過程の工夫とともに、「話し合い」の結果から自分自身の成長に気付く終末への展開の工夫が必要である。

また、道徳の時間における中心的な言語活動は「話し合い」ではあるが、1時間の授業中における導入、展開、終末においても様々な言語活動がある。以下にその実践例を示す。

#### ア 場面絵や写真による導入

主人公の悩む表情の場面絵を提示することにより自由に想像しながら語ることで、資料の世界に入り込むことができる。また、主人公と関係のある写真を見せ、自由に語らせながら資料への興味や関心を高めることができる。



資料名 「私の人生を変えたエチオピア」  
主人公が思わず尻込みをしてしまう場面  
(自作の場面絵)



本多静六が移植した首賭けイチョウ

資料名 「ドクトル本多の誕生」  
本多静六が造った時の様子分かる写真

#### イ 役割演技、動作化



動作化や役割演技は、資料の葛藤場面で生徒が主人公になりきり、その時の主人公の気持ちを考えながら自己を語るすることができる。表現活動を通して自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値についての理解を深め、主体的に道徳的実践力を育てることにつながるものである。役割演技は生徒に特定の役割を与えて即興的に演技させることで、今の時点での自分の気持ちや考えに気付かせる活動である。これらの表現活動は自分の考えを言語化することで、自分の意見がどのようなことを根拠にしているのか、どのような理由なのかを明らかにしていく過程でもある。「なぜ」と更に深く自己や他者と対話することで、自分自身を振り返って、自らの道徳的価値を見つめることになり、道徳的価値に基づいた人間としての生き方の自覚を深めることになる。また、演技者を観ている周りの生徒にも意見を求めることにより、生徒全員が自分自身と対話できるようになる。以下に役割演技を通じて自己との対話を深めていった場面の授業記録を示す。

【ねらい】世界に暮らす人間はみな平等で大切にしなければならないという心情を育てる〔内容項目4ー(10)〕

【資料名】私の人生を変えたエチオピア〔出典：「彩の国の道徳」(中学校)『自分を見つめて』県教委 H22.2〕

場面：キャンプ地に到着して、子どもたちを目の前にしたときの主人公の気持ちを役割演技を通して考える場面  
教師 (T)・・・主人公の心の声      生徒 (S)・・・主人公

授業の実際	授業の意図等
T 子どもたちが走ってきた時、状況のあまりのひどさにアグネスは尻ごみしてしまい、自分は何をしに来たのかと、自分が嫌になってしまいましたね。その後、キャンプ地に着いた時、これから触れ合いをもとうとする子どもたちを前に、アグネスはどんな気持ちだったのでしょうか。そのときの状況を役割演技してみましょう。	○役割演技を通して、自分自身の問題として深くかかわらせ、道徳的価値を明確にさせていく。

～役割演技～

T 先生はあなたの心の中にいるもう一人の自分の声だからね。  
 T どうしたの？ 子どもたちの所に行かないの？  
 S1 そうなんだけど・・・  
 T 迷ってるの？  
 S1 ちょっと・・・  
 T 何で迷っているの？  
 S1 病気がうつったらどうしようと思って・・・  
 T そんなこと分かって来たんじゃないの？  
 S1 そうなんだけど、思ったよりひどい状況だし・・・  
 T 何のために来たの？  
 S1 子どもたちを励ましたいと思ったんだけど・・・  
 T じゃあ、触れ合ってくれば？  
 S1 どうしよう・・・  
 T じゃあ、何もしないで、帰る？  
 S1 そういうわけにもいかないし。  
 T 何で？  
 S1 だって、番組の取材だし、何もしないで帰るわけにはいかないよ。  
 T じゃあ、行ってください。子供たちは待っていると思うよ。  
 S1 うん。行ってみようかな。  
 T 病気怖くない？ 死んじゃうかもよ。  
 S1 そうだよなあ・・・。どうしよう・・・。ああ、思いきって行ってみよう。やっぱり目の前の子どもたちを励ましたい。

教師：主人公の心の声

生徒：主人公

T 今の役割演技を見ていて、どうだった？  
 S2 僕も迷っていた。分かっているけど、病気も怖いなあ。  
 S3 私も迷ったけど、触れ合おうと思った。  
 T どうして？  
 S3 せっかく来たんだし、子どもたちはかわいいよ。  
 S4 病気は怖くないの？  
 S3 怖いけど、行ってみる。  
 T あなたの中の主人公はどうする？  
 S4 迷うなあ・・・。行けないかも。  
 T どうして？  
 S4 だって…病気は怖いし、死んだらいやだ。  
 T では、自分の中の主人公はどうするかグループで話し合ってみましょう。

観客に意見を求めることで、全員の問題として深く関わることができる。

- 教師が主人公の心の中のもう一つの声を演じ、生徒に主人公の気持ちを表現させる。
- 何に迷っているか明確にする。
- 子どもたちと触れ合いたいが、病気になるのが怖いという主人公の気持ちを引き出す。
- さらに主人公の心を揺さぶり、行きたくても行けない主人公の気持ちをとらえさせる。
- どう行動するかを選択させ、その理由を明確にさせる。
- 役割演技を見ている周りの生徒に意見を聞くことで更に考えを深めさせる。
- 役割演技を通して主人公の立場に自分自身を重ね合わせることで、自己の道徳的価値観が明確になっていく。

ウ 話し合い、討論

話し合うことによって他者の考え方に対して理解を深めたり、自己の考え方を明確にしたりすることができる。また討論することで、自分の意見と他者の意見を突き合わせ、同じ点や違う点を確かめ、主人公の生き方や他者の意見を手がかりに自分自身の考えを深め、練り上げ、自分を見つめ直すことができる。

小集団での話し合い



全体の前の話し合いの再現



道徳

「話し合い」と「討論」のモデル例

【ねらい】より高い目標に向かってやり抜く意志 [内容項目1-(2)]

【資料名】ドクトル本多の誕生 ～本多静六の学び～ (出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』県教委 H22. 2)

発問：静六は、ドクトル試験を受けないかと言われたけれど、勉強が思うように進まず、色々悩みましたね。

では、その時の静六の気持ちになって考えながら、あなたの中の静六だったら受けるのか、受けないのか、その理由を明確にしながらかつ小グループで話し合ってみましょう。

小集団での話し合い

～小集団での話し合い～



ポイント「主人公の気持ちを考えながら、自分の中の主人公は試験を受けるのか、受けないのかを明確にして、その理由を発表する。」

漠然とした  
自分の考え

全体の前で小グループでの「話し合い」を再現

主人公の仮面をかぶり、主人公になりきって考える。

\*話し合いが活発に行われていたグループに再現させることによって、より多様な考え方を知り自分自身の考え方と比べていくことにより、自分自身の考えを明確にさせていくことができる。

S1 お前ならどうする？

S2 自分だったらやめるな。だって、ドイツ人だって無理なのに日本人には無理でしょう。

S1 せっかく勉強してきたのに、あきらめるわけ。

S2 勉強だってなかなか進まないし。ドイツ語の本は1日半ページしか進まないのに、どうしたら受かるんだよ。じゃあ、お前は どうするわけ。

S1 おれは受けるよ。

S2 なんて。

S1 今まで努力したんだから受かるよ。努力が無駄になる。

S2 努力したからって受かるとは限らないでしょう。落っこちたらお金だって無駄になる。

S3 そうだよ。落ちるのはいやだし、ドイツ人が一生懸命勉強してやっとなれるわけだから、いくらなんでも無理でしょう。現実そんなに甘くないよ。

S4 努力の成果を試してみたいな。せっかく声をかけられたのだし。

S1 合格して島村先生を喜ばせたいしな。

S2 とにかく今じゃ無理だから今回はあきらめたほうがいいと思うな。

S3 次の機会までもう少し頑張ったほうがいいと思うな。

S2 お前は、何で受かるって思えるわけ。実際無理だと思わない。

S3 そうだよ。努力すれば受かるなんて保証はないし。

S4 夢に向かって頑張ることって大切だろ。受からないと思ったら努力も無いし、もう終わりじゃない？

S1 自分で決めた目標だし、途中でやめるのはいやだな。努力してだめだったらもう一度目標を立てたらいいんじゃないの。目標に向かって頑張ることって大切だし。

S2 それはそうだな。最初からあきらめるのはよくないかもな。

S3 でもさあ、無理と分かっているながら受けるか。受かんないよ。あきらめも肝心だよ。

S1 受からなくても、決めた目標だからおれはやる。



学級全体で討論

小集団での発表を基に、更に意見を出し合い、今の自分の道徳的価値観を明確にしていく。



書く活動

明確な考え

今までの自分を振り返り、自らの価値観を見つめ、見直す

- ・考えがより深まる
- ・新たな考え方に気付く
- 道徳的価値観を形成

他者の意見を聞く

自分の考えを言う

考える

違う意見を聞く

再び、考える

また、違う意見を聞く

また考え、より自分の意見が明確に

エ 自己の振り返り



書く活動は、資料の世界から離れ、ねらいとする価値について今までの自分を見つめ直す重要な活動である。書くことで自分自身と対話し、自分の考えや今の自分を見つめることができる。資料の感想や1時間の授業の中で心に残ったことを書かせるのではなく、自分自身の課題やこれまでの自分自身の生き方を見つめ、書かせるようにすることがポイントである。書く活動を展開に位置付け、自己を見つめる視点を具体的に指示することによって、生徒の感じ方や考え方を明確にしていけることができる。



道徳アンケート

1 人は誰のために生きていますか。  
誰のためとではなく、自分のためだと思ふ。

その理由を書いてください。  
自分の人生ほかに、人のために生きるのはおかしいと思ふから。

2 あなたは誰のために生きていますか。  
自分のため。

3 人の生きる意味は何ですか。  
生きる意味とか必要ないと思ふ。

4 あなたの生きる意味は何ですか。  
親からですが、命だから  
その命を無駄にしないように生きている。  
あと、楽しいことをたくさん経験したい。

ある生徒の

1時間での変容

十五才 心の軌跡 6月6日 名前

(資料名) ブラック・ジャック ふたりの黒い医師  
今日の学習を通して、どんな自分に気がきましたか。また、これからの生き方を考えてみましょう。

私は今まで、人は自分のために生きていて、今までは思っていました。でも、今日の授業を通して、人は誰かのために生きていて、必要とされ、それが役に立った時に生きる意味につながると思ふ。困っている人に必要とされ、それが役に立った時に生きる意味につながると思ふ。私にとつての生きる意味も、誰かに必要とされ、誰かの役に立ち、誰かに喜ばれることだと思ふました。

1	主人公の立場にたって考えた。	(A) B C
2	自分の考えを発表した。	(A) B C
3	友達の意見をよく聞いた。	(A) B C
4	自分の生きかたについて見つめることができた。	(A) B C

「ブラック・ジャック

～二人の黒い医師～」(出典 2年 副読本)

自己評価の視点は、道徳の時間の目標にある道徳的価値の自覚を深めることや学習態度を鑑み、「主人公の立場に立って考える」、「自分の考えを発表する」、「友達の意見をよく聞く」、「自分の生き方を見つめる」の四つとし、3段階で評価できるようにする。

資料から離れ、道徳的価値について自分自身を見つめられるようにするために、例えば「今日の学習を通して、どんな自分に気がきましたか。また、これからの生き方を考えてみましょう。」等の書く視点を示して記入させる。

1時間の授業の中で主人公の生き方に触れ、話し合い活動や討論で他者の意見を聞いて自己との対話を行うことで、道徳的価値についての考えを深めることができる。

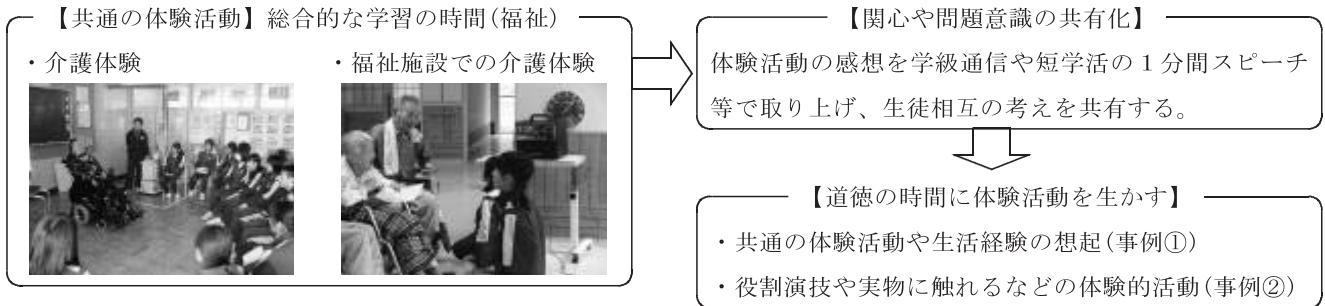
事前のアンケートと比べてみると、「人は自分のために生きていて、人のために生きるのはおかしい。」と思っていた生徒が、主人公の生き方から、「困っている人に必要とされ、それが役に立ったときに生きる意味につながる。」と感じ、その結果、「生きる意味は、誰かに必要とされ、誰かの役に立ち、誰かに喜ばれることだ。」ということに気付いていた。

(2) 体験活動を生かすなどの指導の充実

道徳の時間で体験活動を生かす方法は多様に考えられる。例えば、ある体験活動の中で感じたことを導入や展開で生かすことができ、指導の場をつなげ、生徒の関心を深めることにつながる。学校が計画的に実施する体験活動で生徒は体験を共有し、共通の関心をもとに問題意識を高め、学習に取り組むことができる。また、体験活動の活動内容と似た題材の資料を用いることで生徒の意識が持続され、効果が高まることも期待される。

さらに、道徳の時間のねらいに効果的に迫るために、役割演技や実物に触れてみるなど体験的活動を取り入れることも考えられる。ここでは、授業の導入で共通の体験活動を想起させた事例と役割演技を行うことで道徳的価値への方向付けを図った事例をあげる。


他の教育活動との関連 (補充・深化・統合)



資料名「母の誘い」の導入例 (出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』県教委H22.2)

ねらい…思いやりの心をもって相手に接し、互いの立場や気持ちを尊重しながら支え合って生きようとする態度を養う。

事例1 共通の体験活動を想起させた導入

学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
<p>総合的な学習の時間の共通体験を導入に生かす</p> <p>◎介護体験を振り返る。</p>  <p>写真を提示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>首から下が動かせないなんて信じられなかった。</li> <li>食事を口に運ぶとき、手が震えた。</li> <li>スプーンが歯に当たらないかとか、口に運ぶタイミングに<u>気を付けた</u>。</li> <li>→(切り返し)なぜ気を付けたの？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護体験の写真を提示し、ねらいに関わる生徒の反応を取り上げるようにする。</li> <li>ねらいに対する興味や関心を高めることが目的なので、あまり時間をかけない。</li> <li>☆生徒が共通体験を想起し、「思いやりについて学ぶ」という本時のねらいへの方向付けが図れたか。</li> </ul>

事例2 役割演技などの体験的活動を取り入れた導入

<p>役割演技(食事の介助)を導入に生かす</p> <p>◎役割演技をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: 大変そうですね。私が食事を食べさせてあげますね。</p> <p>B: 大丈夫。手は不自由ですが自分で食べられますから。</p> <p>A: 遠慮しないでください。私がや<u>ってあげますよ</u>。</p> <p>B: あ、そうですか…。ありがとう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいに対する興味や関心を高め、学習意欲を喚起するのが目的なので時間はかけない。</li> <li>☆役割演技をして本時のねらいへの方向付けが図れたか。⇒ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生徒の発言の内容で判断</span></li> </ul>
<p>台詞は短く。内容は体験活動と関連があるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>役割を交替し、AとBを演じた感想を発表する。</li> </ul> <p>役割を交替させることで感じ方の違いが分かり、相手の立場や気持ちを意識させることに効果的である。</p>	<p>【Aを演じた感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>BのあとにAをやったら、「してあげる」という言い方は、上から相手を見ているようでよくないと感じた。</li> </ul> <p>【Bを演じた感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aに申し訳ない気持ちでいっぱいになり、食べさせてもらったけれど、なぜかうれしくなかった。</li> </ul>
<p>【本時のねらいへの方向付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○役割を交替することで、生徒は両者の感じ方の違いに気付き、自分の思いだけでなく相手の立場や気持ちを意識し始めている。</li> <li>○「食事の介助を<u>してあげる</u>」という意識がある行為は、相手に対する配慮が足りないことや、相手も快く思わないことに生徒が気付き始めている。</li> </ul> <p>本時のねらいへの方向付けが図れたと判断できる</p>	

### (3) 魅力的な教材の開発や活用

道徳の時間に活用する教材は、生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味をもっている。また、生徒が人間としての生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割をもっている。具体的には、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材として、生徒が感動を覚えるような教材の発掘に努めることが重要である。そこで、次の点を配慮し作成する。

- 新聞記事、ビデオ等をそのまま資料として扱い授業を行うことは避ける。
- 生徒の発達の段階を考慮し、ねらいと展開を明確にして作成する。
- 資料として扱う物の著作権を考慮して開発する。

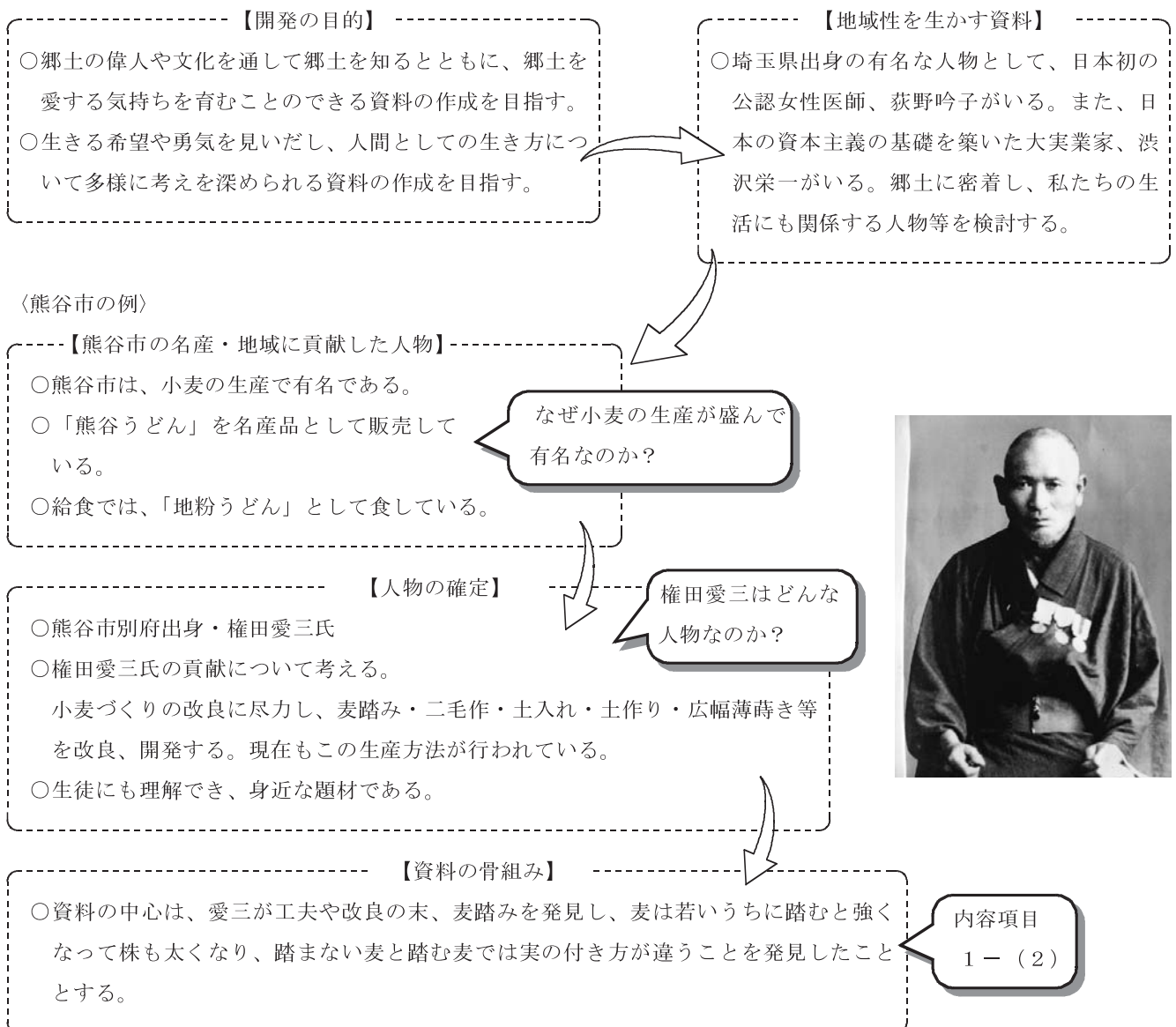
本事例は、地域の偉人であり、地域の農業に貢献するばかりでなく、全国の農業技術の発展に寄与した人物を資料化したものである。資料開発から活用に至るまでの過程を以下に示す。

#### ア 資料の開発にあたって

郷土の偉人の資料開発にあたっては、次の3点を目的として作成した。

- ①生徒の興味や関心を高められるもの。
- ②郷土の偉人で、郷土及び地域社会に貢献した人物であること。
- ③主人公の生き方を通して、生徒が多様に学び、考えを深めることができるもの。

#### イ 資料の決定から魅力ある教材への開発へ



## ウ 資料作成までの流れ

1 資料の検討	<p>地域社会に関係した郷土資料を目的とする。地域の偉人について検討し、適切な人物の資料を準備する。資料を検討し、題材を決定する。</p> <p>例：熊谷市は小麦の生産で有名である。給食でも「地粉うどん」として、子どもたちは食べている。熊谷市の名産として「熊谷うどん」を名物としている。熊谷で小麦の生産が増えた理由をたどると、「権田愛三」という人物にたどり着く。</p>
2 情報の収集	<p>題材に関する資料を準備する。インターネット等を利用し、情報を収集する。また、必要な書籍、写真、データ等を準備する。</p> <p>例：「権田愛三」について、インターネットを利用して調べる。また、書籍を準備する。「権田愛三」の生家を訪ね、話を聞くとともに、必要な資料を収集する。</p>
3 第1段階の自作資料	<p>事実関係を書き連ねた資料を作成する。必要な書籍、準備した資料をまとめる。そのものが道徳の時間の教材とはならなくても、資料の基盤となるものを作成する。</p> <p>例：「権田愛三」の生涯の中で一番重要であり、苦労した場面を題材として取り上げ作成する。生徒への分かりやすさを考慮する。</p>
4 資料内容の吟味 ねらいの決定	<p>第1段階の資料を検討し、ねらいを決定する。資料の内容を吟味し、題材から何を学ぶのか、また、題材をどのように生かすのかを検討する。</p> <p>例：「権田愛三」の生涯の中で転機の部分である「麦踏み」の発見を中心に資料を作成する。ねらいである「強い意志」を中心に伏線を張り、場面を振り分けて資料を作成する。</p>
5 第2段階資料	<p>第1段階の資料を基に、道徳の時間の指導の流れを考えながら、資料を作成する。大切なことは、生徒の感性に訴える言葉や表現を工夫し、人間の弱さに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるものになるようにする。文章中に心情を直接書き込まないなどの配慮が必要である。</p> <p>例：「権田愛三」が事業に失敗し、借金取りから逃げている部分を取り上げ、その中から、小麦を大量に収穫できる「麦踏み」という方法を発見した喜びを、言葉や表現を工夫して授業に生かせるようにする。</p>
6 資料の確認	<p>自作資料なので多くの人たちに資料を検討してもらい、道徳の時間の資料として活用できるか確認する。</p> <p>例：「権田愛三」の資料を作成する上で参考とした書籍会社及び著者に確認してもらう。また、「権田愛三」の生家の現在の当主である方に確認をお願いする。</p>
7 活用の工夫	<p>資料の完成とともに、授業に活用するための補助資料を準備する。</p> <p>例：「権田愛三」の年表を準備する。また、本人の肖像、お墓、地域にある碑、愛三が書いた書籍の写真等、授業に役立つ補助資料を作成する。</p>



権田愛三が麦作について  
まとめた書籍



権田愛三の偉業を記した記念碑  
(熊谷市別府公園内)



資料の中の挿絵は、生徒が  
イメージした絵を活用

## エ 年間指導計画に位置付けるまでの流れ

①開発資料を用いた検証授業 → ②道徳部会での検討（差し替え資料の検討）  
→ ③管理職（校長・教頭）の確認 → ④年間指導計画への位置付け



1 主題名 着実にやり抜く強い意志 [内容項目1-(2)]

2 資料名 「権田愛三」(自作資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人間としてよりよく生きていくためには、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつことが大切である。日常生活の中のほんの小さな目標であっても、達成されたときの満足感から自信と勇気が出てくるものであり、次の高い目標に向かって努力する意欲につなげることができる。目標を成し遂げるためには、様々な障害や困難に遭遇することも多いが、自分の目標を実現するために、最後までやり抜く強い意志と態度を育てたい。

(2) 生徒の実態について (略)

(3) 資料の活用について

熊谷市は小麦の生産が盛んであり、名物の「熊谷うどん」があったり、給食においても地粉うどんが出されたりしている。当時、関心の高くなかった小麦に目をつけ、麦作りを広めたのが権田愛三である。「村の子どもたちが腹を空かせていることがないようにしたい」という強い気持ちから、困難を乗り越えて、熊谷地方を埼玉県一の麦作地帯にしたのである。麦作りに情熱をかけた熊谷市の偉人、権田愛三の生き方から、自らの目標に向かって着実にやり抜く強い意志と態度を育てていく。

4 本時のねらい より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、くじけないで努力していこうとする態度を育てる。

5 学習指導過程

段階	学習活動 (主な発問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 熊谷市の麦作りと権田愛三との関係について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊谷市が日本の麦作りの発祥の地であることを知る。</li> <li>麦王と呼ばれる権田愛三について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンを使って、麦作りの資料や権田愛三の写真を提示して、分かりやすくまとめる。</li> </ul>
展開	2 麦作りに情熱をかけた主人公「愛三」を中心に話合いをする。 (1) 愛三が、おじいさんに商売をやりたいと申し出たときどんな気持ちだったのでしょうか。 (2) 借金取りから逃げていた日々愛三はどんなことを考えていたのでしょうか。 (3) 踏まれた麦が、それに負けまいと踏ん張って伸びた姿を見たとき、愛三はどんな気持ちだったのでしょうか。 (4) 愛三が麦作りを成功させるまで持ち続けていたものとは何だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>早く借金を返し、村の子どもたちをお腹いっぱいにしてやりたい。</li> <li>今の状況から脱するためには、自分が何とかしなければいけない。</li> <li>こんなふうになるんだったら、商業に手を出さなければよかった。</li> <li>借金取りから逃げてばかりではいけない。</li> <li>この麦作りを成功させれば、夢が叶うかもしれない。</li> <li>困難に打ち勝とうとしている麦のように自分も生きなければいけない。</li> <li>絶対に成功させるという執念。</li> <li>村の子どもたちを思う強い気持ち。</li> <li>いつかは成功させようというあきらめない心。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛三が借金を返すために、農業をやめて、商売を始めようとする強い気持ちを押さえる。</li> <li>愛三の葛藤を生徒の言葉で表現させ、価値観の一端をとらえさせる。</li> <li>困難から抜け出せる手段を見いだした喜びと、麦の姿を自分と重ねて見ている愛三の気持ちに気付かせる。</li> </ul>
開	3 愛三の生き方を学び、感じたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛三がもち続けた強い気持ちのように、自分もあきらめない心をもって、困難に負けたくないようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆主人公の強い意志が原動力になっていることをとらえることができたか。</li> <li>書く活動を通して、自分の考え方を振り返る。</li> </ul>
終末	4 教師の説話を聞く。 (「心のノート」 P22参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>努力することが大切なんだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に余韻をもたせる。</li> </ul>

## 6 評価の観点

- ・より高い目標を目指し実現させるためには、着実にやり抜く強い意志が大切であることに気付いたか。(生徒)
- ・資料を通して、強い意志をもつことの大切さを深く考えさせるための発問や授業形態の工夫ができたか。(教師)

## 7 板書計画



- ・絶対成功させるという執念
- ・村の子どもたちを思う強い気持ち
- ・いつかは成功させようというあきらめない心

持ち続けていたもの

- ・夢が叶うかもしれない
- ・麦のように自分も生きなければいけない



麦の姿を見て

- ・借金取りから逃げればかりじゃだめだ
- ・商業に手を出すんじゃない
- ・借金取りから逃げればかりじゃだめだ



借金取りから逃げる



気持ち



麦王  
熊谷市の  
麦作

### 権田愛三



### <郷土教材の効果的な活用法>

郷土の偉人を扱う場合には、資料への導入の工夫を考慮して、その偉人の知名度を事前に把握しておく必要がある。今回の熊谷市の偉人「権田愛三」については、聞いたことがあるという程度の生徒が3人、熊谷市が麦作りの発祥の地であることも5人しか知らなかった。そのため、授業実践当日の朝の会で、熊谷市の麦作りの状況や「権田愛三」について簡単に説明しておいた。さらに、道徳の授業における導入では、「熊谷うどん」や麦畑の写真、「権田愛三」の写真等を視聴覚機器を使って紹介した。

偉人を扱った資料には、多様な生き方が織り込まれるため、中心となる道徳的価値以外にも、関連する様々な道徳的価値がある。本事例では、「着実にやり抜く強い意志」を主題として作成したため、①偉人が郷土に対する思いを叶えるために実行しようとする場面、②失敗に直面することで、人間としての弱さが出てくる場面、さらに③そこからあきらめずに強い気持ちをもってやり遂げようとする場面での話合いを行うことで、ねらいに迫ることにした。授業実践は、3年生という自分の進路決定に向けても強い気持ちをもち始める時期であった。そのため、夢の実現に向けて強い気持ちをもち続けた偉人の生き方と自分を重ね合わせて考えることができた。

### 生徒の感想から

- 借金が増えてもお、子どもたちの空腹をなくしてあげたい！ という高い志に向かってあきらめずにたくさんの方を考え、実践する精神の強さがすばらしいと思う。私は3日坊主なので、権田さんを見習って、高い目標をもち続け頑張りたいです。
- 「子どもたちをお腹いっぱいにしてあげる！」という気持ちをずっともち続けていて、失敗して苦しい中でもあきらめないで前へ進んでいる権田さんはすごいと思いました。私たちのクラスのスローガンにも「夢に向かって走り続ける！」というものがあるから、何事も最後まで全力でやり遂げることが大切だと思った。
- 愛三さんは、借金取りが毎日来て、怖くても、子どもや周りの人のために頑張ろうとしていた優しさや、ずっとあきらめない強さが人一倍あったから、麦王として、みんなの役に立てたんだと思います。今の自分には、愛三さんのように「誰かのために」というのはないけれど、これからの進路に向けて、あきらめない強い気持ちはもち続けようと思いました。

学校給食で郷土食材として「熊谷うどん」が出されるため、生徒の感想や授業で扱った写真等を教室の道徳コーナーに掲示しておくことで、権田愛三について振り返ることができた。生徒の道徳性を養う環境整備の面からも有効であった。

## 2 学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育の推進

### (1) 道徳教育の取組の家庭や地域社会への広報

社会の急激な変化の中で価値観の多様化が進み、道徳教育における学校、家庭、地域社会の連携が重要視されている。学校は家庭や地域社会との交流を密にし、協力体制を整えるとともに、具体的な連携の在り方について多様な方法を工夫する必要がある。学校と家庭の連携を深めるためには、道徳教育の意義やねらい、生徒の実態について保護者と共通理解を図り、共に生徒を育てていくことが大切だという認識をもつことが重要である。本事例は道徳の時間の指導や事前・事後の指導において、生徒が書いたものを道徳通信で紹介し、それに対する保護者の感想などをさらに学級通信で紹介するなど、学校と家庭との連携を図ったものである。以下に具体的な事例を示す。

#### ア 道徳通信の活用

道徳通信とは、道徳の時間で扱った資料名やそのねらいなどを保護者に知らせるとともに、授業中に書いた生徒のワークシートからその内容を紹介するなど、学校から家庭へ情報を提供することが主な目的である。道徳の時間のねらいに対する生徒の実態のアンケート結果を掲載して、授業の前後で比較したものを保護者に伝えたり、授業で活用するための保護者のアンケートを道徳通信を通して依頼し、授業後の生徒の反応を掲載したりするなど、学校と家庭の協力体制の活性化を図ることができる。道徳通信は各学年の持ち回りで作成するなど工夫して発行することができる。ここでは、クラス担任が発行している道徳通信を紹介する。

資料 1

<b>道徳通信</b>	2年C組 5月6日号
-------------	------------

**資料名：屋休みの自由** 5月2日（月）実施

＜あらすじ＞ 大久保朝子さんという中学2年生が主人公。ある日の屋休み、朝子さんは仲良しな入組で屋休みにバレーボールの円陣バスをして遊ぶ。最近バレーボールがはまっているらしく、あちこちで輪になってやっていた。朝子さんたちは楽しく遊んで夢中になり、予鈴が鳴ってもやめずに遊び続けてしまう。急いで教室に戻る。英語の授業は始まっていて、いない人の確認をしていたところだった。ずいぶん授業には戻れたものの・・・、隣の学活で担任の先生から「クラス全員屋休みのバレーボール禁止」と宣告されてしまう。

※主人公「わたし」の心の変化について考えました。今年度初めての道徳の授業でした。手を挙げて発表してくれた人もいましたが、いいことを書いているのにみんなに伝わらずもったいないと思う人もいました。もっと話し合いが盛り上がったのに・・・と思わずにいられません。そこで、この「道徳通信」でさまざまな意見を取り上げ、みんなで共有するとともに、ご家庭でも一読され、今の子供たちがどんな風に物事をとらえ、考えているのかの一端にしたいだけだと思います。ちなみに私は、「自分の意見をもち、それをみんなの前で発表できること」と「みんなの意見をよく聞くこと」を目標に今年度道徳の授業を進めていきます。

(1) 担任の先生から『バレーボール』と言われた時の気持ちは？

- ・自分のせいでこういうことになり、も悔しくて悲しい気持ち。
- ・自分たちのせいで、クラスみんなをわけてしまった。申し訳ない気持ち。
- ・学校が一番楽しい屋休みのバレーボールが禁止された。みんなゴメン！
- ・「戻ろうよ」と言われて、さびしくなっちゃった！
- ・バレーボールが大好きだったので、さびしい。
- ・担任の先生に話を聞いてもらって、話を聞いてもらってよかった。

資料の大まかな内容と発問に対する生徒の意見を掲載。

「自由」という言葉はいいけど、本当の自由はない。

- ・世の中には、みんなが自由にしたら世の中はダメになる。きまりって堅直しなくてはいけないけど、けっこう楽しい意味があった。
- ・きまりがない方が自由にできるけど、みんながみんな自由に過ごしていると、けんかになったり、争いが起こったりする。
- ・自分の「思うとおり」が他人に迷惑をかけることだってある。
- ・自分勝手でもいいことはない。
- ・世の中には、たくさんの方がいて思っていることも違う。みんなが楽しく過ごせるためにきまりがある。

道徳の時間の取り組み方や道徳の授業への願い、また、この通信の活用等を掲載。

「話を切り出すか？言うセリフは？」

「きまりを破ったんだから、みんなにも悪いことをしたからみんなと先生に話さないようにしようよ。もしかしたら許してくれるようにしようよ。」

「かわからないけれど、みんなで謝った方が自分の中でも少しは気持ちよくなると思う。」

(4) 今日の学習で考えたことをまとめよう！

- ・きまりは守ってこそきまりだと思うから、今度から守っていきなさいと思った。
- ・みんなに迷惑をかけないようにきまりを守ろうと思った。
- ・自分1人がきまりを守らないだけでみんなに迷惑をかけてしまうから守りたい。
- ・きまりはみんなが守らないと意味がない。
- ・きまりを守ることでもみんなが気持ちよくいられるということを知った。
- ・みんなが気持ちよくいられないと自由がなくなる。
- ・遊ぶまで遊ばないよう親との時間を守って遊びたい。
- ・これからは門限を守りたいと思います。
- ・きまりを守らない人に注意するのはとても勇気が必要だけど、頑張って注意したい。

懇談会の時に話題となった「門限」を守ることに決めたのでそんな感想も・・・

おわりに

いかがでしたでしょうか？ 屋休みに外で遊んでいる2年生はとて多くいます。自分たちはまだ大丈夫だって勝手に決めてはいませんか？ 面倒だなんて思っても、きちんとしている人たちのことを守って生活している人もいます。そういう人たちのことを思い出せるといいですね。

保護者の皆様、何か感想をお持ちになりましたか？ 思ったらことをお気軽にお寄せください。読んでいただきますが、通信では載せませんので安心してお寄せください。

お名前（ ）

道徳の授業後は、生徒の様子をこの通信にまとめて掲載し、最後に、保護者に感想等を記入してもらってスペースを設け、依頼する。

道徳

#### イ 学級通信

前述のように「道徳通信」に保護者の意見欄を設けて配布すると、保護者の生の声を聞くことができ、授業改善等に役立つとともに保護者の関心を高めることができる。(資料2参照)。学校公開週間や授業参観日等で保護者が学校に来られた際にも、そのことを話題にしたり、感想を伝えてくれたりする様子が見られた。また、届いた保護者の意見や感想をさらに「学級通信」で紹介していくことによって、学校と家庭が共通理解を図りながら、共に生徒を育てていくことができるようになる。



(2) 道徳教育に関する学校行事等への家庭や地域社会の参加

ア 道徳の授業への保護者、地域住民の参加の事例

道徳の授業に保護者や地域住民が参加する利点は大きい。参加した大人たちには、学校における道徳教育への理解が深まり、子どもたちにとっては、大人から直接学ぶことにより、道徳的価値の理解や人間理解の深まりが期待できる。

ここでは、従来の終末等で保護者等に語ってもらう「ゲスト・ティーチャー」という方法でなく、より簡単でもかも効果が期待できる方法として保護者や地域住民に生徒役で道徳の授業に参加してもらう「ゲスト・スチューデント」という方法を取り上げる。

第3学年〇組 道徳学習指導案

1 主題名 かけがえのない自他の生命を尊重する〔内容項目3－(1)〕

2 資料名 「ドナーカード」〔出典 3年 副読本〕

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

科学技術の進歩は「生命」の在り方を大きく変えた。医療技術の進歩によってそれまで助かることのなかった生命が助かるようになった。しかしこのことは同時に「生命」に関する倫理的な問題を私たちに突きつけることになった。例えば、はたして「脳死」を人の死として扱ってよいのかどうかは、いまだに国民的な合意を得ているとは言い難い。現在も様々に議論される「脳死」「臓器移植」の問題を通して「生命」を重く受け止め、自他の生命を尊重しようとする態度を育成したい。

(2) 生徒の実態について

本学年の生徒は様々なことを多面的に考える力がついてきており、若者らしい真っ直ぐさ、正義感をもった生徒も多い。しかし、「人間としての生き方」の問題と真正面から向き合うことができない生徒もいる。本主題である生命の問題を考えることは非常に難しい問題ではあるが、避けることのできない重要な問題である。まもなく義務教育を終えるこの時期であるからこそ、脳死や臓器移植の問題を通して生命の重要性について考え、自他の生命を尊重しようとする態度を育成したい。

(3) 資料の活用について

本資料は臓器移植に関しての率直な考えを述べた新聞の投書を扱ったものである。本時においては脳死や臓器移植の賛否や是非の議論に終始することなく、例えば、投書の母親はどんな思いから亡くなった幼子に涙を流したのか、どんな思いから自分の娘をドナーにはできないのかということを考えさせたい。そして、いずれの立場もたった一つしかない命を大切にしたいと願う気持ちの表れなのだとすることに気付かせ、自他の生命を尊重しようとする態度を育成したい。

4 本時のねらい

生命の尊さを深く自覚し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成する。

5 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価 ●保護者の協力
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドナーカードを受け取る。</li> <li>○これはなんだろう？</li> <li>・脳死、臓器移植について説明を聞く。</li> <li>○「脳死」は「死」なのだろうか？</li> <li>○家族が「脳死」と判定されたとき、移植を待ち望んでいる人への移植の同意ができるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドナーカード</li> <li>・臓器を提供する意思があるかないかをあらかじめ明らかにするためのもの。</li> <li>・心臓が動いているのだから死ではない。</li> <li>・生き返る可能性がないなら死。</li> <li>・本人が望んでいたとすれば同意する。</li> <li>・絶対に同意できない。</li> <li>・待っている人には気の毒だけど、やはり自分の家族は大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業隊形は小グループで行う。</li> <li>・実物により本時への関心・意欲を高める。</li> <li>・主題を考えるための予備知識として、脳死、臓器移植の問題について理解させる。</li> <li>・脳死の問題について班で話し合う。</li> <li>●保護者の班の意見も聞く。</li> <li>・臓器移植の問題について班で話し合う。</li> <li>●保護者の班の意見も聞く。</li> <li>☆「脳死」と「臓器移植」の問題をとらえることができたか。</li> </ul>

展 開	<p>・資料の範読</p> <p>(1) 高井さんが移植を待ちながら死んだ子に涙を流しつつも、「娘をドナーにはできない」と考えるのはどんな気持ちからだろう。</p> <p>(2) 新見さんが自分の臓器移植には肯定的なのに、妻の臓器提供には否定的なのはなぜだろうか。</p> <p>(3) 新見さんの妻は夫のドナーカードをなぜ秘密の場所に隠しているのだろうか。</p> <p>(4) 二人の投書を読んで「命」についてどう考えたのか。</p>	<p>・心臓が動いているのに「死」とは認められない。認めたくない。</p> <p>・たとえ死んだとしても娘の臓器はあげられない→大切だから。</p> <p>・自分はどうせ死んでしまうからいいけど、大切な妻の身体はあげられない。</p> <p>・脳死になっても妻が死んだとは認められない。</p> <p>・軽々しく考えるものではないから。</p> <p>・大事な夫のことを、他人に見られたくないから。</p> <p>・移植の是非は軽々しく考えてはいけない。命は重い。</p>	<p>・一面的な見方に陥らないように適切な援助を与える。</p> <p>・いずれの立場も、生命の大切さを深く認識し、尊重している結果である点に気付かせる。</p> <p>●実際に妻（夫）や子をもつ親の立場から保護者の意見を聞く。</p> <p>☆保護者と生徒の意見の共通点や相違点を比べながら考えることができたか。 (他者理解・人間理解)</p> <p>・誰にもじゃまされないところで一人で考えようとしている妻の気持ちに共感させる。</p> <p>●保護者の意見も聞く。</p> <p>☆二人の筆者の立場と保護者の意見などを通して、命の重みを感じ取ることができたか。 (道徳的価値の自覚)</p>
	終 末	<p>○一緒に考えてくれた保護者のみなさんに感想を聞く。</p> <p>○授業の感想をまとめる。</p>	<p>・難しい問題を中学生と一緒に考えられてよかった。</p> <p>・生死の意味や問題を大人たちと考えられて勉強になった。</p>

## 6 評価の観点

- ・保護者との意見交換の中で、生命の大切さについて考えを深めることができたか。〈生徒の学習の評価〉
- ・生命の尊さを自覚し深く考えさせるために、保護者の参加を有効に活用することができたか。〈教師の指導の評価〉

## 7 保護者の授業参加について

### (1) 参加保護者の対象

本授業においては10名の保護者に「生徒」役で参加してもらった。10名の中で本学級の保護者は2名、その他は他学年、他学級の保護者（PTA役員）である。対象は学級の保護者だけでなく、学校応援団や学校評議員など、地域の大人でもよい。



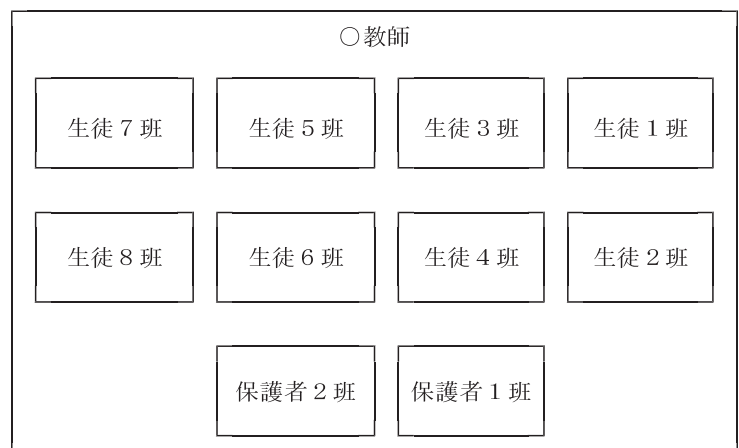
### (2) 授業の形態

本授業は小グループでの話し合いを中心に展開した。

右の図のように生徒の班8班と、保護者の班2班で授業を行った。

グループ内で意見交換を行い、多様な価値観に触れる機会を多く設けた。意見は集約するのではなく、自他の考えの類似点や相違点をとらえ、自分の考えを発表させるようにした。グループでの話し合いのため、一人一人の考えを伝える時間が確保でき、活発な意見交換ができた。

生徒も保護者も、互いの意見に触れることができ、考えを深め合っている様子が見られた。



(3) 本授業実施に向けての準備

本授業実施に向けた保護者との打ち合わせは以下のとおりである。

- ①本授業の構想を管理職に相談し、推進委員会、職員会議等で報告する。(授業約1か月前)
- ②PTA会長に授業の構想、ねらいを説明して、保護者等の協力を得る。(授業約1か月前)
- ③PTA役員会において本授業の構想、ねらいを説明し、授業への協力者を募る。(授業約3週間前のPTA役員会)
- ④PTA会長を通じて協力者を確定させる。(授業約2週間前)
- ⑤当日授業の30分前に協力者を集め、班分けと授業の流れについて説明する。(資料は事前には配布しない)

(4) 授業の中での発言

【発問(1)】

高井さんが「娘をドナーにはできない」と考えるのはどんな気持ちからだろう。

生徒 A 「いくら困っている人がいるとしても、まだ心臓が動いているのに自分の大切な娘の身体を提供はできない。」

保護者 B 「これを読んでいて、自分が娘を生んだときのことを考えてしまった。

生まれてきてくれて本当に嬉しかったし、子どもと過ごした時間は宝物のようなものだ。だから、もし死んでしまっても、娘をずっとそばにおいておきたいという親の気持ちはよく分かる。」



【発問(2)】

新見さんが自分の臓器移植には肯定的なのに、妻の臓器提供には否定的なのはなぜだろう。

生徒 C 「自分は医者だから、臓器移植の可能性をよく知っている。自分なら構わない。でも、一番大切な人の臓器は提供できない。やはり大切なものは大切だから。」

保護者 D 「一人の親、夫であると同時に大人になれば自分の仕事について、プロとしての誇りとか責任というものが出てくるものだと思う。この人の場合、自分が医者であるという誇りと責任感もあって、自分の身体であれば進んで提供しようと考えているのだろうと思う。ただ、C君と同じように、家族のこととなると話は別。大切なものは大切なのであって、これは理屈ではどうにもならないのではないかと思います。」

(5) 授業後の感想

〈生徒の感想〉

- 「死」について考えるのはすごく難しい。自分がいつ死ぬか分からないから、1日1日を大切に生きていこうと思う。1日1日、友達や家族、先生、地域の人たちに感謝して生きていこうと思う。(男子生徒E)
- 大人の人たちと一緒に考えられたこともすごくいい経験になったと思います。うちのお母さんもきっと〇〇さんのお母さんみたいに考えているんだろうなあなどと考えました。生きているってどういうことなのか、難しいけれど、とにかく、もらった命を一生懸命生きていこう、そんなふうに思いました。(女子生徒F)

〈参加した保護者の感想〉

- 小さい頃からずっと見てきた子どもたちが、こんなに難しいことを考えるような歳になったんだと、すごく感激しました。臓器提供ができるかどうか、私にもよく分かりません。でも、自分も子どもたちにも、たった一つしかない命を精一杯生きていて欲しいと考えています。今日はいいい経験をさせていただきました。どうもありがとうございました。



8 まとめ

「保護者や地域の人々に道徳の授業に参加して欲しいが、適切な人材を探したり、準備の時間がなかなかとれなかったりする。また、せっかく参加していただいたのに、たった5分の話では申し訳ない。」ということが、保護者や地域の人材を道徳の授業に活用する課題となっている。

本実践の場合、参加してもらった保護者や地域の方は、特に何かの専門家であったり、特別な体験をしている人であったりすることはなく、いつも身近にいる地域の大人である。また、長時間の打ち合わせや準備の必要もない。本実践のように「生徒役」として協力を依頼し、保護者や地域の人々が参加して授業を行う方法も有効な手段である。

### (3) 道徳教育を柱とした地域の活動

道徳の時間の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発、活用などに保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりすることは、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を生かした一体的な道徳教育を推進するための大切なはたらきかけである。

本事例は、活動基盤が小・中学校通学区と一致し、学校教育と深く関わっている団体である「Y町O地区青少年健全育成協議会」との連携により、家庭や地域の理解を深め、道徳教育の推進を目指し、啓発活動に取り組んだ事例である。

## ア 作成した文集・絵画集 「郷土〇〇 心あたたまる いい話」 全56ページ 発行部数1,500部

### イ 編集の目的

地域の児童生徒に対して、美しいものや価値あるものに感動するみずみずしい感性を育むとともに、善悪についてしっかりと考えることができる力を養っていかうと考えた。

そこで、地域ぐるみの道徳教育として、小・中学校の児童生徒を中心に、地域の高校生、一般の社会人の方から、郷土を愛し、埼玉県一ががんばる児童生徒が育つ我が地区の「心あたたまるちょっといい話」を集めて冊子にまとめることとし、各家庭等に配布して児童生徒の健全育成に資するという目的を設定した。

### ウ 冊子の構成

表紙 小・中学校児童生徒作品から

挨拶 Y町O地区青少年健全育成協議会会長 同町教育長 地域選出の全議員 全小・中学校長

内容 児童・生徒作品（作文各学級2点・絵画各学級1点 計87作品 俳句118作品）

- ・親切にされてうれしかった話や自分が体験した心あたたまるちょっといい話の作文。
- ・親切にされてうれしかったことや自分が体験した感動的な場面の絵画及び俳句で保護者等の掲載の同意のある作品。

〈作文〉 縦書き（1学級は2人で2段組）

小学校 第1・2学年は200字程度、第3・4学年は330字程度、

第5・6学年は480字程度

中学校 620字程度（高校・一般は中学校に準ずる）

〈絵画〉 小・中学校全学年、高校・一般は共通

A5サイズ横長の清書用紙にクレヨンや水彩絵具、色鉛筆等で描き、

1行コメントを加えたA4サイズ 上下2段組



### エ 表彰規定

冊子「郷土〇〇 心あたたまる いい話」に作文、絵画等が掲載された児童生徒等に対して、〇〇地区青少年健全育成協議会会長名で表彰し賞賛する。

### オ 冊子発行の成果

日常生活の中で互いに人と人が思いやり、心を通わせ合う姿、思わぬ失敗談から学んだことや微笑ましい話も含まれており、「人と人との絆、人と地域社会との絆」を感じさせてくれるものとなっている。

本冊子を、Y町O中学校区の全児童生徒へ配布し、O地区の全ての家庭には、回覧によって一読をお願いした。また、地域の医療機関、金融機関、郵便局や駅等の公共施設へ配布し、閲覧に供することができた。

小・中学校の児童生徒、保護者のみならず、広く地域社会の方々に「我が郷土の心あたたまるいい話」を届けることによって、児童生徒に対して美しいものや価値あるものに感動するみずみずしい感性や善悪についてしっかりと考えることができる力を養うことができた。





### 3 小・中学校が連携した道徳教育

道徳教育の連続性、一貫性を考える観点から、小学校と中学校、中学校と高等学校などの学校間の連携を一層充実させる必要がある。例えば、相互の学校行事に参加したり、幼稚園や保育所で中学生や高校生が職場体験を行ったりするなど、下記の①～⑥などのように、様々な取組を工夫することができる。

- ① 道徳の時間の授業参観、研究協議を行う。
- ② 小・中学校の教員同士が協力して授業を行う。
- ③ 道徳教育について、合同研修会を行う。
- ④ 保護者や地域の方を対象に、道徳講演会を共催で行う。
- ⑤ 児童生徒が合同で奉仕活動などの体験活動を行う。
- ⑥ 児童生徒が合同であいさつ運動など実践活動を行う。

小・中学校が連携をして9年間の見通しをもち、一貫した道徳教育を推進することは、共通の課題を認識してその解決を図るためにも効果的である。

下記に示す事例は、両校の道徳教育推進教師が中心となって小・中学校との連携を図り、基本的な生活習慣の確立などを中心に、生活規律をしっかりと身に付けながら道徳性を育むことを中心に行ったものである。



小・中合同運動会



中学生が小学校であいさつ運動

#### (1) 共通課題を基にした道徳の授業の実施

A小学校とB中学校の道徳教育推進教師が中心となって合同研修会を計画し、指導方法の改善等の研修を夏季休業中に実施した。そして、年間指導計画に則って、同じ時期に「あいさつ」や「靴そろえ」を題材とした道徳の授業を行うこととした。

A小学校（低学年）	A小学校（中学年）	A小学校（高学年）	B中学校（全学年）
内容項目 2-(1)	内容項目 1-(1)	内容項目 4-(6)	内容項目 1-(1)
気持ちよいあいさつ、動作に心がけ、自分から人に明るく接する態度を育てる。	規則正しい生活することが気持ちよいことに気付かせ、節度ある生活をしていこうとする態度を育てる。	みんなで協力し、よりよい校風をつくろうとする態度を育てる。	生活規律を身に付けることが、成長に深くかかわっていることに気づき、進んで身に付けていこうとする態度を育てる。
「彩の国の道徳」 『きょうもげんきに』 「えがおであいさつ」	「彩の国の道徳」 『みんななかよし』 「運動ぐつも笑ってる」	「彩の国の道徳」 『夢にむかって』 「ぼくの学校を一番に」	「彩の国の道徳」 『自分をみつめて』 「父の一言」

「あいさつ」や「靴そろえ」の授業を通して、基本的な生活習慣について重点的に授業を行った結果、児童生徒の意識が高まり、規範意識の確立につながった。



〈B中学校「父の一言」の授業風景〉

(2) 「挨拶運動」の実施

A小学校及びB中学校の合同の取組として、それぞれの学校で同じ時期に、職員による「挨拶先手運動」や児童会及び生徒会による朝礼前の「挨拶運動」を行った。

誰もが挨拶をされると気持ちよいものである。挨拶を通して、望ましい生活習慣や思いやりの心を育むことができた。



職員による「あいさつ先手運動」



生活委員会による「あいさつ運動」



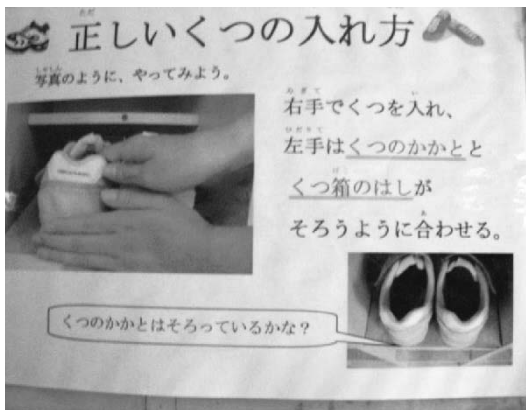
両校に同じ掲示物を貼る

(3) 「靴そろえ」の実践

A小学校とB中学校の生徒指導担当、道徳教育推進教師が連携を図り、「靴そろえ」の実践を行った。A小学校及びB中学校では、下足箱のところに靴そろえの見本を掲示し実践をした。

A小学校では学年が上がるにつれて「靴そろえ」が身に付き、高学年が一番整っていた。そのままB中学校に引き継がれ、生徒もしっかりと靴をそろえることができた。

〈A小学校の取組〉



〈B中学校の取組〉



A小学校とB中学校の靴のそろえ方の掲示と靴そろえの様子

小・中学校の道徳教育推進教師が中心となり、9年間を見通して組織的、計画的に道徳教育を推進していくことが、児童生徒の発達の段階と課題に即した重点的な取組の効果を高め、児童生徒の道徳性を着実に育成することにつながっていくものである。